

お月見山行 丹沢 水無川新茅ノ沢

(報告) K

期 日：2018年9月24日

メンバー：K (L) F

中秋の名月の頃、お月見山行である。前日に「神奈川県山岳スポーツセンター」にてお月見の宴を張り、翌日は、2パーティに分かれ、1Pは同センターから三ノ塔尾根をへて、2Pは新茅ノ沢を遡行して各々烏尾山目指す。昼食の頃には山頂で合流する計画である。

前日のお月見の方は、雲が厚く残念ながら月を愛でることはできませんでしたが、宴の方は、普段はご一緒出来ない方々とも一同に会してのお酒と料理で楽しい交流の場となりました。

また、この日は「第71回 秦野たばこ祭り」ということで、夜(19:30)は花火の打ち上げがありました。水無川に架る「風の吊り橋」から秦野市の夜景の傍らに花火の全景を見ることができる風情はなかなかのものでした。距離がもう少し近ければという感はありますが、この季節に「月見」も「花火」も鑑賞できる穴場かもしれません。

翌日の山行は、Fさんと新茅ノ沢を遡行する事に。ポイントは烏尾山でランチタイムに合流できるかどうかである。山岳スポーツセンターを三ノ塔尾根へ向かう1Pより早めに出発、6:30に新茅山荘近くに車を駐車し遡行のための準備を整え出発、7:00頃に入渓し新茅橋の下を潜り抜ける。

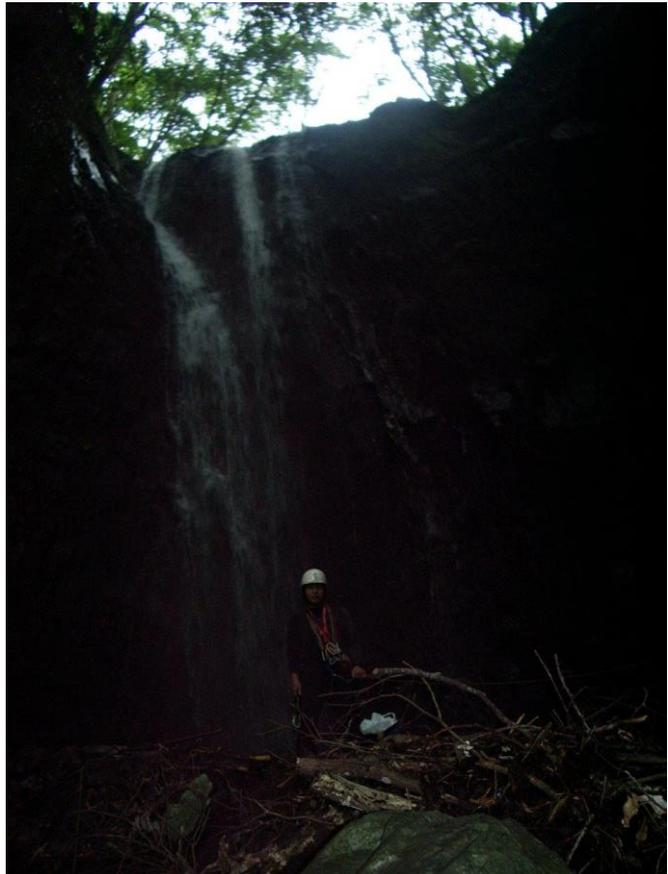
新茅ノ沢は、振り返ってみると1970年に山の会に入り、2年上の先輩に連れられ、丹沢での初めての沢登りがこの沢である。前夜、新茅橋の下で怪しげなビバーク、翌日、遡行した。新茅橋の下は現状では崩れ落ちてビバークするようなスペースはない。また、今では沢の様相の記憶もほとんどない。

Fさんとは、この夏、源次郎沢、セドノ沢左俣・右俣と3本の沢を遡行している。4本目ともなると沢の様相を確かめながら、阿吽の呼吸でザイルなどを捌きながら遡行していく。入渓直後は体も目覚めていない感じではあったが、冷たく濡れた岩に触れ、F1、F2と滝筋を遡行していくことで、この沢の核心部であるF5の大棚に着くころには、体も目覚め、動きも少し良くなってきている感じである。

F5 大柵は、先日のセドノ沢の右俣大滝のように滝に直接に打たれるような流水であれば高巻く予定であったが、水流の右側フレークを登る直登ルートはそれほどでもない様でもあり、時間的には少し気になるが登ることにする。

<F5 大柵>→

取り付きは、水量は少ないとはいえ垂直に落ちてくる水流が半身にかかる。濡れたホールド、スタンスの状況と相まって気に障るところ、早く抜きたいところだが残置ハーケンを辿り、ザイルを掛けながら攀じる。徐々に傾斜がせまってくる。先日のセドノ沢右俣では、滝を抜ける最後の詰めを強引にいきスリップしてしまったことから、最後の核心部では足場とホールドを慎重に選び、重心を移して乗り越える。



ビレーを取りザイルアップしてFさんを待つ。途中、ハーケンにカラビナー一枚掛けてしまった箇所があり、Fさんには回収に苦勞を掛けてしまう、ザイルが張った状態で確保器具を解除しザイルを緩めるのに苦勞する。核心部をFさんも慎重に超え大柵を終了する。(8:45 大柵上)

大柵を過ぎれば困難な滝はない。後は確実に詰めるだけである。F8、F9を超えると二俣となる。右の滝の方が水量が多いことからルートは右か？左俣から右俣へ回り込むと滝は地層から流れる湧水であることが判明、ルートは左、タイムロスである。沢筋は崩壊した石は積み重なったような状況となり足元が不安定。先を見渡すと崩壊しそうな枯れたゴルジュが続く様相。どこかで鳥尾尾根へ向けてエスケープすべく適当なルートを探る、CSを過ぎたところで右斜面に抜けられそうな踏み跡もどきような斜面がありエスケープ。30分ほどで鳥尾尾根に抜け、さらに10分ほどで鳥尾山(12:18)である。昼食には適度な時間ではあるが、1Pの姿は見えない。

Fさんが携帯で連絡をとる。鳥尾尾根を下山中とのこと、10:30頃に鳥尾山、一時間ほど待って11:30頃に山頂を後にしたとのこと。F5大柵を迂回すれば合流できた時間でもあり、ちょっと大柵にこだわり過ぎたか。

山頂で昼食をとり登攀用具を整理し 30 分ほどで烏尾尾根の下りにかかる。14:00 に駐車場着。その後、山岳スポーツセンターに戻り、1 P とも無事合流し会山行を終了した。

<コースタイム>

県立山岳スポーツセンター (5:55) ~ 駐車場 (6:30~46) ~ 新茅ノ沢入口 (6:58)
~ F5 大棚上 (8:45) ~ F9 上 (9:30) ~ CS 上 (11:15~25) ~ 烏尾尾根 (12:07) ~
烏尾山 (12:18~52) ~ 駐車場 (14:00) ~ 県立山岳スポーツセンター 14:40)